

案件概要書

2017 年 12 月 19 日

1. 基本情報

- (1) 国名：モザンビーク共和国
- (2) プロジェクトサイト／対象地域名：カーボデルガード州国道 380 号線上
- (3) 案件名：第二次カーボデルガード州国道三百八十号橋梁整備計画（The Project for Construction of Bridges on N380 in Cabo Delgado Province (Phase 2)）
- (4) 事業の要約：カーボデルガード州の国道 380 号線上の老朽化した仮設橋 4 橋の整備を図るもの。

2. 事業の背景と必要性

(1) 本計画を実施する外交的意義

モザンビークはインド洋に面するアフリカ南東部の玄関口であり、国際場裏において我が国立場を支持する友好国である。本年 8 月には、我が国が 1993 年以来主導しているアフリカ開発会議（TICAD）の閣僚会合を同国にて開催している。

本計画は、2017 年 3 月の日・モザンビーク首脳会談の際に発出された共同声明において、両首脳が重要性を認識した「ナカラ回廊経済開発戦略（PEDEC-Nacala）」を構成するものである。モザンビークは天然資源が豊富で、ナカラ回廊を中心に近年、日本企業による資源関連ビジネスが活性化しており、本計画は、二国間関係全般の強化のみならず、資源関連ビジネスにおける日本企業の活動環境の整備にもつながる。また、モザンビークの一人あたり GNI は 480 ドル（2016 年世銀）と低く、世界の最貧国に位置づけられており、我が国が、同国が抱える開発課題の解決を促し、その安定と発展を支援することはモザンビークのみならず周辺地域の成長にもつながることが考えられることから、外交的意義がある。

(2) 当該国の道路セクター／ナカラ回廊開発の現状・課題及び本計画の位置付け

モザンビークの道路舗装率は全国で約 24%（出典：Economic and Social Plan Integrated Road Sector Program Annual Report 2016）に過ぎない。国家開発戦略（National Development Strategy 2015-2035）、政府 5 か年計画（2015-2019）に基づく道路・橋梁管理に関する戦略として 2015 年に策定された新道路セクター戦略（New Road Sector Core Strategy）において、国道 380 号線（以下「本道路」という。）は整備優先度の高い道路に位置付けられている。総延長距離約 200km の本道路は、天然資源開発や農業開発に高いポテンシャルを有し、ナカラ港を基軸とした経済開発が期待されているナカラ回廊地域を南北に縦断し、当国の今後の経済発展に大きな影響を与え、本邦企業が投資するロヴマ沖の天然ガス開発を進める上でも重要なアクセス道路になっているが、道路上の橋梁の多くは約 60 年前にポルトガルによって建設された仮設橋のまま老朽化しており、設計条件等の情報や図面等の資料がなく、落橋のリスクを有する。

本道路上の橋梁のうち特に落橋のリスクが高い 3 橋梁は、無償資金協力「カーボデルガード州国道三百八十号橋梁整備計画」（2017 年 4 月）で架け替えを行うことにな

っているが、本計画は、落橋リスクが高いものの、整備未着手の4橋梁の架け替えを行うものであり、2016年11月に閣議決定されたナカラ回廊経済開発戦略（PEDEC-Nacala）においても、天然ガス開発促進に必要な高優先度案件に位置付けられている

（3）道路セクター／ナカラ回廊に対する我が国の協力方針と本計画の位置付け

我が国はTICAD VIにおいて、ナカラ回廊をアフリカにおける総合地域開発（回廊開発）の3重点地域の一つに位置付けており、「回廊開発を含む地域経済活性化」を対モザンビーク共和国国別援助方針の重点分野としている。

（4）他の援助機関の対応

本道路の北部区間（マコミア-オアシ間）の整備をポルトガル政府が実施済（2014年8月完工）。アフリカ開発銀行が国道381号線（ムエダ-ネゴマノ間）の整備を実施予定。

（5）本計画を実施する開発政策上の意義

本計画は当国政府の開発課題・開発政策と我が国の協力方針・分析に合致するもので、ナカラ回廊の幹線道路整備によりSDGsの目標9「強靱なインフラ構築」ならびに同地域で計画を行う本邦企業の活動にも貢献すると考えられることから無償資金協力にて本計画の実施を支援する必要性は高い。

3. 事業概要

（1）事業概要

① 事業の目的

カーボデルガード州の国道380号線上の老朽化した仮設橋4橋梁の整備を図るもの。

② 事業内容

ア) 国道380号線上の4橋梁（ムンゴエ橋、ムエラ橋Ⅰ・Ⅱ、ムアガムラ橋）の架替え。

イ) コンサルティング・サービス／ソフトコンポーネントの内容：詳細設計・施工監理

ウ) 調達・施工方法：協力準備調査にて確認する。

③ 他のJICA事業との関係

ナカラ回廊において有償資金協力「マンディンバ-リシंगा間道路改善計画」（2013年11月L/A調印）、無償資金協力「イレ・クアンバ間道路橋梁整備計画」（2013年6月）「カーボデルガード州国道三百八十号橋梁整備計画」（2017年4月）を実施中。技術協力「道路維持管理能力向上プロジェクト」にて向上した道路の維持管理能力が、本計画でも活用されることが期待される。

（2）事業実施体制

① 事業実施機関／実施体制：道路公社（Administração Nacional de Estradas：ANE）

② 他機関との連携・役割分担：特になし。

③ 運営／維持管理体制：事業実施機関は我が国を含むドナーの協力による道路・橋梁整備案件の実績を有しており、特段の支障は生じていないが、協力準備調査にて詳細を確認する。

（3）環境社会配慮

① カテゴリー分類 ☐A ☒B ☐C ☐FI

② カテゴリー分類の根拠：

本計画は、「国際協力機構環境社会配慮ガイドライン」（2010 年 4 月公布）に掲げる道路・橋梁セクターのうち大規模なものに該当せず、環境への望ましくない影響は重大でないと判断され、かつ同ガイドラインに掲げる影響を及ぼしやすい特性及び影響を受けやすい地域に該当しないため。

（４） 横断的事項

特になし。

（５） ジェンダー分類

ジェンダー主流化ニーズ調査・分析案件

（６） その他特記事項

特になし。

４．過去の類似案件の教訓と本計画への適用

バングラデシュ人民共和国向け有償資金協力「ジャムナ橋アクセス道路計画」（1997 年 7 月）の事後評価等において、計画開始後の大規模洪水発生直後、洪水対策に係る路面の嵩上げ等の設計変更を実施したことにより、その後発生したサイクロンや洪水などの自然災害に対しても、当該道路は有効に機能したと指摘されている。このことから自然災害の未然防止という姿勢を柔軟に設計に反映させることが重要であるとの教訓が得られている。

本計画では、この教訓を活かし、下部工基礎の根入れを十分にとるとともに、雨期の河川氾濫にも対応できるよう適切な桁高及び橋長とすることで、洪水時の流下能力を増大させ、自然災害被災リスクを可能な限り低くする設計を検討する。

以 上

[別添資料] 地図

第二次カーボデルガード州国道三百八十号橋梁整備計画 地図

※①②③⑦が本計画の対象橋梁。④⑤⑥は署名済のカーボデルガード州国道三百八十号橋梁整備計画の対象橋梁。

